

日本血管不全学会の先生方へ

このたび、私共の声を取り上げて下さり、深く感謝いたします

「活動の動機」について、お問い合わせを承り  
先の添付資料の補足としまして、次の通り追伸いたします

1. 「単なる胸やけ」診断直後に急逝した父
2. 「単なる腸炎」解離を看過された私
3. 低血圧の親族病歴から 体質 家族性 遺伝病を考える
4. LDS 患者方との出会いから 低値・低血圧を再考
5. 多くの先生方からお支えいただき 覚悟したこと
6. 低値の視点からみた 脈波の世界
7. 企業の広報力のご活用を

助けたかった父への情 家族の無念 怒り 悲しみは消えず  
「どうしたら、父を助けられたのであろう」  
三十年後に「低値から 救われる命がある」と気づき  
私たち家族の悲しみは 無駄ではなかった と思いました

「死後の監察、事後の手術より 内科で治療を」

脈波高値の把握から 動脈硬化の治療へと発展し  
現在、高血圧症の人々は、恩恵を受けています

脈波の世界地図は 高低の両極、半分 残されています

皆さまの 高値へのアプローチを、低値にも 応用いただけますならば  
5年後には 新たなスタンダードが生まれ  
血管の脆弱性をもつ、多くの患者の命が救われるでしょう

私たちは 先生方と共に進んで参りたく 心からのお願いを申し上げます

2025年2月3日

ロイス・ディーツ症候群の会  
坂本智子

